

『東アジア近代史』第21号 2017年6月

《特集》近年における日清戦争に対する「歴史認識」をめぐって

檜山 幸夫「日清戦争に対する歴史認識」について

木村 幹「日清戦争の再発見—中国台頭が与える韓国の言説変化—」

若松 大祐「現代台湾史における甲午戦争と乙未戦役—中国の命運から台湾の命運へ—」

川島 真「中国における甲午戦争百二十年史研究」

大谷 正「日本における日清戦争研究の現段階」

大澤 博明「二〇一六年東アジア近代史学会 学会シンポジウム コメント」

青山 治世「コメント—中国各層における「甲午戦争」認識の位相—」

《ミニ・シンポジウム》第一次世界大戦期の諸問題

斎藤 聖二「二十一か条要求案の成立経緯」

《独立論文》

藤岡 佑紀「日清戦争の「軍夫」に関する一考察—日清戦後の軍夫騒擾から—」

《研究ノート》

馬場 宏恵「杉山茂丸と児玉神社」

《書評》

北野 剛：久保田裕次著『対中国借款の政治経済史：「開発」から二十一カ条要求へ』

荻 恵理子：李穂枝著『朝鮮の対日外交戦略 日清戦争前夜 1876-1893』

檜山 幸夫：古結諒子著『日清戦争における日本外交—東アジアをめぐる国際関係の変容—』

《活動報告》

《予告》二〇一七年度第二二回研究大会

『東アジア近代史』 ゆまに書房 (TEL03-5296-0491) 発売 (本体価格 2,500 円)